

# リレー通信

## 山との関わり



長尾 謙次郎

山は山でも様々な携わり方や見方があると思われず。各々が持つ山に対する知識や経験、思い入れ、考え、志等はそれぞれであります。これまで、私は山とはまったくの無縁であったわけでもなく、山との触れ合いもいくらかあり、都会の人々と比べれば山との距離はさほど遠くない人間であると思っております。

なぜなら、前職が陸上自衛隊であった事もあり、山には毎月のように行き、行けばそこに数日間滞在し、野営をし、時には潜伏し、穴を掘り、そこで眠り、国防の重みを感じながら、同時に山の厳しさも実感しつつ訓練に励む日々を過ごしていた時期があったからであります。

森や林、山中を夜通し歩いた事もありました。そんな時は辺りは暗闇に包まれ、ほとんど何も見えず、前を歩いている人の姿が辛うじて見える程度で、辺りに何の木が生

えているのか、山がどうなっているのかさえ分からない中をただひたすら歩くだけの事を経験させていただきました。

山に関しては、無関心というよりも、その山が置かれている現状と環境、山が現在抱えている諸問題に気が付かず分からないでいた自分がありました。従来、日本人は山と密接な生活を送り、食糧から燃料、家具や生活用品まで山から運び出し、それらを作り、はたまた木を伐採し建築材をとる等し、それらを売り、収入源にしていたものでした。そのような古くからの山と人のつながり、密接な関係は現代において希薄なものとなっております。日本社会が豊かになりすぎた故に、山との関係を絶つたとしてもなんら不都合も生ぜず、生活してゆける、そんな社会があるのが現状です。

自衛隊において見てきた山と現在KOA森林塾の塾生として携わり見ている山とは、当然視点と目的が異なる所から、まったく異なる事に気付かされます。今日の日本の山の現状と抱える諸問題を鑑みれば、学ぶべき事が多く、山の重要性も思い知られます。

KOA森林塾との出会いは昨年の十一月の集中コースの参加が始まりました。兄の誘いでKOA森林塾について話を聞いて知り、また森林塾が長野県の伊那市に所在すること、それはまた長野県伊那郡の母方の祖父の古里でもあり、伊那には祖父所有の山が存在するという偶然が重なりました。集中コース参加前より、伊那の親戚から祖父名義の山について話を聞いており一度、兄とその山を目指し探し上りましたが、途中で断念した経緯がありました。

戦後一度も手入れがなされていない山、長らく人の手が入らず整備されていない山は数多くあります。そんな山の一つに



長尾 謙次郎

祖父の山があるのです。どうか、なんとかしてこの山を我々の手で整備したい、手入れが出来ないだろうか、そのためには山についての知識や経験も含め、しっかりと勉強しなければならぬという必要性から、兄と共に集中コースに参加し、森林塾にお世話になることになった次第であります。もちろん、集中コースだけでは足りず、もう少し時間をかけてゆっくり勉強しようという思いから、今春より通年コースで多くのことを学ばせて頂いて、現在に至っております。

自衛隊では山の中でどう生き抜くか、どのようにして身を守るか、また山の地形を利用していかかに敵を制圧するかなど、サバイバル的な要素を含んだ一つの山に対しての携わり方、関わり方でした。この山は手入れされているかどうか、森林の診断などはまるでする必要がなく、そのままの状態のまま利用し活用する、そんな山の見方をし、接して参りました。

一方で、森林塾はと言うと現在の日本の山々の現状に憂えて、なんとか林業人口の増加も含め林業を復活させ、日本の山々を生き返らせようという目的の下、多くの方々が一生懸命に山仕事に汗を流しております。そして、志ある人々にも懇切丁寧

に御指導し、若い世代にも林業の大切さ、重要さを教えております。そんな森林塾の山に対しての携わり方、将来を見据えて山と向き合うその姿勢はとて有意義であり、私が見てきた山に対する考え方を百八十度転回させられてしまうようなある意味新鮮さも覚えてしまうところでもあります。

今は、伊那にそびえる数多くの山々の、ほんの一角にすぎない祖父名義の山ではありますが、その山のために、自らの手でしっかりと整備し、手入れをし、十分使える山とし、後世の孫たちの世代にもしっかりと残せる山に出来たら良いと思います。もちろん、森林塾で教わった事、学んだことを活かし、なにかの形で日本の林業に携われることも意義深い事であると考えている次第です。

二〇〇八年夏のある夕方、私はスペインのサラゴサという小さな街の川べりで、煙草をふかしながら時間をつぶしていた。

エプロ川というその川に沿うように形成されたこの古い地方都市は、ローマ帝国時代の石造の遺跡が、流行のファッション誌を売るキオスクの横にでんと鎮座しているような街だった。

細く入り組んだ石畳の路地を歩けば、辻という辻で、この街の歴史が積み重ねてきた歩みの一歩一歩をなぞっているような気分になつてくる。

そんな街だった。昼間の叩きつけるような太陽も、夕暮れには撫でるように優しくなる。街全体がハチミツを垂らしたような色に染まり、外気が涼しく感じられるようになる。人々がエプロ川沿いの道を散歩し始める。談笑しながら歩く恋人達や、明るく笑い声をたてながら跳ね行く少年達。手をつなぎ、お互いをいたわるようにそぞろ歩く老夫婦の背中、得もいわれぬ充

# リレー通信

## 美しき稜線



長尾 景友

足感に満ちているように、私には見えた。  
よそ者である私は、煙草のけむりで胸を満たしながら、その様子を眺め、考えてみた。

「この街を覆っている、この充足感の実体は一体何であるのか。」と。

河のはるか上流に見える乾いた原野と、石造りの大聖堂。静かに流れる緋色の河と石畳の道。

この自然環境と建造物が織りなす、景観の調和に、そのヒントがありはしないか。

そんな気がしてきた。

石の建築と街づくりが良

いというのではない。その土地の気候風土が条件づける、制約と必然性の中に、この街が形造られている。だからこそ、そこにごく自然な調和が

成り立つのではなからうか。そうした造形の横糸を、ローマ時代からの積み重ねであ

る叙事詩のような縦糸が貫き、このサラゴサという空間を編んでいるのだ。

そのような場所に身を置くと、人は自分がどこから来て、どこへ行く者なのかという、おのが存在の根本的な問いに対する回答のようなものを、誰に教えられることもなく環境から感じ取るものなのではないだろうか。

煙草を吸い終わる頃、私はそう考えるようになっていた。

ただ一つ、この考え方には自分を含めさせきれない要素があることも分かっていた。

なぜなら私はこの街で、この街の人間が感じているかもしれない充足と安心を、彼らほどには感じられずにいるのだから。

その理由はおそらく、私がこの気候風土の中から生まれた者ではなく、自分を育んだ文化が、

この土地のそれとは異なるものであるという事実が、大きく関係していたろう。



それだけでも埋められないパ

ツであり、そこを満たすための代替物を、異邦人はつい探そうとしてしまうのだ。

だから私は外国で喫煙量が増えるのだと、理由にもならない理由で煙草を正当化してみたりする。

日本に拠点を移し、本格的に腰を据えるようになってから六年が経つ。

それまでの音楽の仕事に加え、家の事情で不動産業にも携わるようになった私は

今、土地と住まいに関わるものとして、この国が抱える土地や住文化にまつわる問題を、根っこから省察したいと考えている。

右記のような事柄を突き詰めていった延長線上に、KOA森林塾があった。

また、数年前に他界した母方の祖父が、KOA森林塾の場である長野県伊那市の出身であったことも、何かの縁であったかもしれない。

自衛隊出身の私の弟もこの塾に参加しているが、私達兄弟は幼少より、戦争のこと、古き良き日本文化のこと、そして故郷・伊那のことを聞かされて育った。

第二次世界大戦時、海防艦という護衛艦の主計長として従軍し、九死に一生を得て帰国した祖父であったが、洋上の甲板にあつて、その視線

の先には常に伊那の美しい山の稜線があつたに違いないと、私達は思っている。

### ◆樹のコラム◆

みずめ

離弁花 カバノキ科 カバノキ属 落葉高木

本州から四国、九州に分布する樹で日本固有種。葉の縁には重鋸歯があり、八〜十四対の側脈がきれいに並んでいます。葉の大きさは長さ五〜十cm、幅は二〜八cmでわりと大きい葉です。

花は雌雄同株で、四月に穂のように下に垂れ下がってつきます。カバノキ科なので、白樺のような花です。黄緑色でひとつひとつは地味ですが、たくさん垂れ下がった花が、風に気持ちよさそうにゆらされて咲いている姿は、春の訪れを喜んでいように見えます。カバノキ科の花はいずれもよく似ていて、花だけでは正直、私は全然見分けが付きません。

でもこの樹には、他の樹とは異なる大きな特徴があります。それは樹皮を爪で傷つけると、サロメチールのようになにおいがすることです。私は初めてこの樹と出会ったとき、樹からこんなにおいがするなんて、とても驚きました。人工的なサロメチール



よりも、もつと柔らかい甘いのある感じでした。この樹の名前を覚えるにはとても印象的な出逢いでした。

サロメチールのにおいがする樹は他に、同じカバノキ科のネコシデ、ツツジ科の白玉の木があります。残念ながらネコシデの香りを私はまだ経験していませんが、シラタマノキは去年の秋に出逢えました。

実際の香りもスーっとしますが、甘みのある柔らかい香りでした。登山で少し歩き疲れた頃に、この白玉の木に出逢い香りを吸い込んで、とてもリラックスしたのを覚えていています。もともと自然の香りで、気持ちがりラックスできるこの香りを利用したんだなあ何だかとても納得しました。この白玉の木は高山植物で秋に果実をつけます。

みずめの樹皮は、横に長い皮目があり、桜に似ています。昔はこの樹で弓を作った

### ◆おわりに◆

二日続きで雨になったことは過去の森林塾でもおそらくはじめてのことでした。おまけに8月20日(土)は小屋の薪ストーブが焚かれ、これも今までで最も早い焚き始めだと思います。

季節の変わり目、夏の終わり、にはただあなたに会いたくなるの...は森山直太郎でしたか。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-706.  
FAX 0265-70-799.  
E-mail:  
sh-sakano@koanet.co.jp  
ki-hayakawa@koanet.co.jp  
携帯:090-4463-0062 (開催日)  
URL http://www.koanet.co.jp

